冠動脈疾患治療部

小林　欣夫

1987年，内科学第三講座（現循環病態医科学）教授稲垣義明先生の御尽力により，冠動脈疾患治療部が開設された。1977年に世界で初めて経皮的冠動脈形成術（percutaneous coronary intervention；PCI）が施行され，当時日本においてもPCIが開始され始めたころであり，今後この分野が大きく発展すると考えた稲垣先生の先見の明によるものである。稲垣先生が冠動脈疾患治療部部長を兼任され，実務担当者として竹田賢先生が講師となった。竹田先生は虎ノ門病院にてPCIを学ばれ，1988年に当院における最初のPCIが施行された。その後，順調にPCI施行件数も増加していった（図）。1993年稲垣教授が退官され，増田善昭先生が内科学第三講座教授に就任され，冠動脈疾患治療部部長を兼任された。1994年竹田先生の辞職に伴い，千葉県立鶴舞病院（現千葉県循環器病センター）より伏島堅二先生が赴任され，冠動脈疾患治療部講師となり実務を担当された。1995年伏島講師が辞職され，1995年は市川治彦先生，1996年は酒井芳昭先生，1997年は黒田央文先生，1998年は山本豊先生が実務を担当した。1999年に虎の門病院より小宮山伸之先生が赴任し，冠動脈疾患治療部講師となった。2001年増田先生が退官され，小室一成先生が循環病態医科学教授に就任され，冠動脈疾患治療部部長を兼任された。2004年小宮山先生が埼玉医科大学循環器内科教授となり辞職された。その後は，New York Lenox Hill Heart Vascular Institute, Cardiovascular Research Foundation 血管内超音波部門部長であった小林欣夫が冠動脈疾患治療部講師となった。この時より積極的に急性心筋梗塞や不安定狭心症などを受け入れる体制に変革が行われ，PCI施行件数が2004年以降，飛躍的に増加している（図）。

（こばやし　よしお）

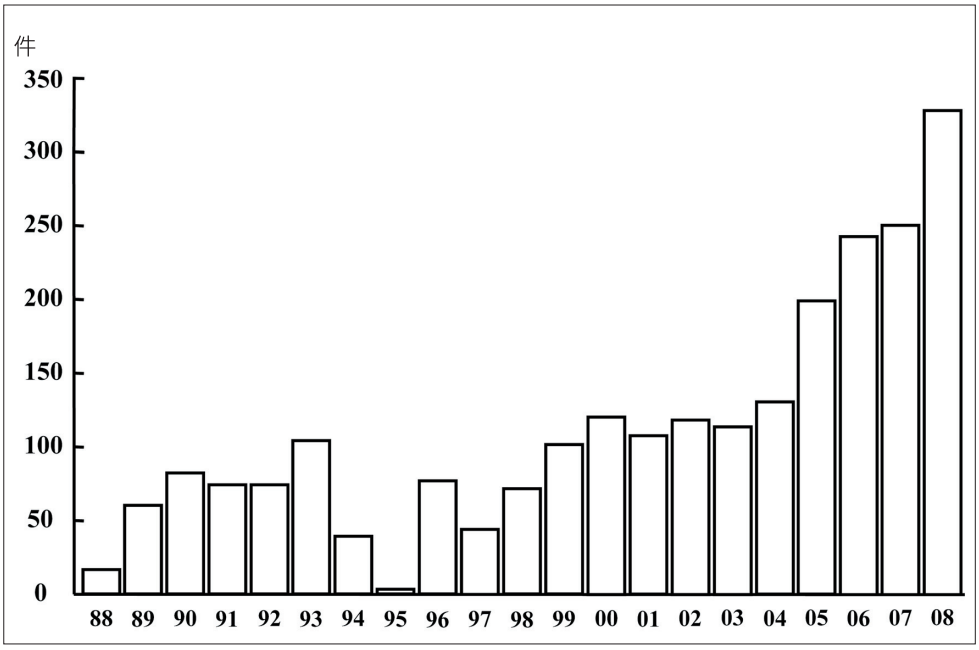

図.経皮的冠動脈形成術施行件数